

平成十六年政令第百三十七号

不動産登記令

内閣は、不動産登記法（平成十六年法律第二百二十三号）第十八条、第二十二條、第二十五條第三号、第二十六條及び第七十條第三項（これらの規定を同法第十六條第二項において準用する場合を含む。）並びに同法第二百一十一條第一項の規定に基づき、不動産登記法施行令（昭和三十五年政令第二百二十八号）の全部を改正するこの政令を制定する。

目次

第一章 総則（第一条・第二条）

第二章 申請情報及び添付情報（第三条―第九条）

第三章 電子情報処理組織を使用する方法による登記申請の手続（第十条―第十四条）

第四章 書面を提出する方法による登記申請の手続（第十五条―第十九条）

第五章 雑則（第二十条―第二十七条）

附則

第一章 総則

（趣旨）

第一条 この政令は、不動産登記法（以下「法」という。）の規定による不動産についての登記に關し必要な事項を定めるものとする。

第二条 この政令において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

一 添付情報 登記の申請をする場合において、法第二十二條本文若しくは第六十一條の規定、

第二章の規定又はその他の法令の規定によりその申請情報と併せて登記所に提供しなければならないものとしてされている情報をいう。

二 土地所在図 一筆の土地の所在を明らかにする図面であつて、法務省令で定めるところにより作成されるものをいう。

三 地積測量図 一筆の土地の地積に関する測量の結果を明らかにする図面であつて、法務省令で定めるところにより作成されるものをいう。

四 地役権図面 地役権設定の範囲が承役地の一部である場合における当該地役権設定の範囲を明らかにする図面であつて、法務省令で定めるところにより作成されるものをいう。

五 建物図面 一個の建物の位置を明らかにする図面であつて、法務省令で定めるところにより作成されるものをいう。

六 各階平面図 一個の建物の各階ごとの平面の形状を明らかにする図面であつて、法務省令で定めるところにより作成されるものをいう。

七 嘱託情報 法第十六條第一項に規定する登記の嘱託において、同條第二項において準用する法第十八條の規定により嘱託者が登記所に提供しなければならない情報をいう。

八 順位事項 法第五十九條第八号の規定により権利の順位を明らかにするために必要な事項として法務省令で定めるものをいう。

第二章 申請情報及び添付情報

（申請情報）

第三条 登記の申請をする場合に登記所に提供しなければならない法第十八條の申請情報の内容は、次に掲げる事項とする。

一 申請人の氏名又は名称及び住所

二 申請人が法人であるときは、その代表者の氏名

三 代理人によって登記を申請するときは、当該代理人の氏名又は名称及び住所並びに代理人が法人であるときはその代表者の氏名

四 民法（明治二十九年法律第八十九号）第四百二十三條その他の法令の規定により他人に代わつて登記を申請するときは、申請人が代位者である旨、当該他人の氏名又は名称及び住所並びに代位原因

五 登記の目的

六 登記原因及びその日付（所有権の保存の登記を申請する場合にあつては、法第七十四條第二項の規定により敷地権付き区分建物について申請するときに限る。）

七 土地の表示に関する登記又は土地についての権利に関する登記を申請するときは、次に掲げる事項

イ 土地の所在する市、区、郡、町、村及び字

ロ 地番（土地の表題登記を申請する場合、法第七十四條第一項第二号又は第三号に掲げる者が表題登記がない土地について所有権の保存の登記を申請する場合及び表題登記がない土地について所有権の処分の制限の登記を嘱託する場合を除く。）

ハ 地目

ニ 地積

八 建物の表示に関する登記又は建物についての権利に関する登記を申請するときは、次に掲げる事項

イ 建物の所在する市、区、郡、町、村、字及び土地の地番（区分建物である建物にあつては、当該建物が属する一棟の建物の所在する市、区、郡、町、村、字及び土地の地番）

ロ 家屋番号（建物の表題登記（合体による登記等における合体後の建物についての表題登記を含む。）を申請する場合、法第七十四條第一項第二号又は第三号に掲げる者が表題登記がない建物について所有権の保存の登記を申請する場合及び表題登記がない建物について所有権の処分の制限の登記を嘱託する場合を除く。）

ハ 建物の種類、構造及び床面積

ニ 建物の名称があるときは、その名称

ホ 附属建物があるときは、その所在する市、区、郡、町、村、字及び土地の地番（区分建物である附属建物にあつては、当該附属建物が属する一棟の建物の所在する市、区、郡、町、村、字及び土地の地番）並びに種類、構造及び床面積

ヘ 建物又は附属建物が区分建物であるときは、当該建物又は附属建物が属する一棟の建物の構造及び床面積（トに掲げる事項を申請情報の内容とする場合（ロに規定する場合を除く。）を除く。）

ト 建物又は附属建物が区分建物である場合であつて、当該建物又は附属建物が属する一棟の建物の名称があるときは、その名称

九 表題登記又は権利の保存、設定若しくは移転の登記（根質権、根抵当権及び信託の登記を除く。）を申請する場合において、表題部所有者又は登記名義人となる者が二人以上であるときは、当該表題部所有者又は登記名義人となる者ごとの持分

十 法第三十條の規定により表示に関する登記を申請するときは、申請人が表題部所有者又は所有権の登記名義人の相続人その他の一般承継人である旨

十一 権利に関する登記を申請するときは、次に掲げる事項

イ 申請人が登記権利者又は登記義務者（登記権利者及び登記義務者がいない場合にあつては、登記名義人）でないとき（第四号並びにロ及びハの場合を除く。）は、登記権利者、登記義務者又は登記名義人の氏名又は名称及び住所

ロ 法第六十二條の規定により登記を申請するときは、申請人が登記権利者、登記義務者又は登記名義人の相続人その他の一般承継人である旨

ハ ロの場合において、登記名義人となる登記権利者の相続人その他の一般承継人が申請するときは、登記権利者の氏名又は名称及び一般承継の時にける住所

ニ 登記の目的である権利の消滅に関する定め又は共有物分割禁止の定めがあるときは、その定め

ホ 権利の一部を移転する登記を申請するときは、移転する権利の一部

ヘ 敷地権付き区分建物についての所有権、一般の先取特権、質権又は抵当権に関する登記（法第七十三條第三項ただし書に規定する登記を除く。）を申請するときは、次に掲げる事項

(1) 敷地権の目的となる土地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該土地の地番、地目及び地積

(2) 敷地権の種類及び割合

十二 申請人が法第二十二條に規定する申請をする場合において、同条ただし書の規定により登記識別情報を提供することができないときは、当該登記識別情報を提供することができない理由

十三 前各号に掲げるもののほか、別表の登記欄に掲げる登記を申請するときは、同表の申請情報欄に掲げる事項

(申請情報の作成及び提供)

第四条 申請情報は、登記の目的及び登記原因に応じ、一の不動産ごとに作成して提供しなければならない。ただし、同一の登記所の管轄区域内にある二以上の不動産について申請する登記の目的並びに登記原因及びその日付が同一であるときその他法務省令で定めるときは、この限りでない。

(一の申請情報による登記の申請)

第五条 合体による登記等の申請は、一の申請情報によってしなければならない。この場合において、法第四十九條第一項後段の規定により併せて所有権の登記の申請をするときは、これと当該合体による登記等の申請とは、一の申請情報によってしなければならない。

2 信託の登記の申請と当該信託に係る権利の保存、設定、移転又は変更の登記の申請とは、一の申請情報によってしなければならない。

3 法第四十四條第一項の規定による信託の登記の抹消の申請と信託財産に属する不動産に関する権利の移転の登記若しくは変更の登記又は当該権利の登記の抹消の申請とは、一の申請情報によってしなければならない。

4 法第四十四條の二第一項の規定による信託の登記の抹消及び信託の登記の申請と権利の変更の登記の申請とは、一の申請情報によってしなければならない。

(申請情報の一部の省略)

第六条 次の各号に掲げる規定にかかわらず、法務省令で定めるところにより、不動産を識別するために必要な事項として法第二十七條第四号の法務省令で定めるもの(次項において「不動産識別事項」という。)を申請情報の内容としたときは、当該各号に定める事項を申請情報の内容とすることを要しない。

一 第三條第七号 同号に掲げる事項

二 第三條第八号 同号に掲げる事項

三 第三條第十一号へ(一) 敷地権の目的となる土地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該土地の地番、地目及び地積

2 第三條第十三号の規定にかかわらず、法務省令で定めるところにより、不動産識別事項を申請情報の内容としたときは、次に掲げる事項を申請情報の内容とすることを要しない。

一 別表の十三の項申請情報欄に掲げる当該所有権の登記がある建物の家屋番号

二 別表の十三の項申請情報欄へ(一)に掲げる当該合体前の建物の家屋番号

三 別表の十八の項申請情報欄に掲げる当該区分所有者が所有する建物の家屋番号

四 別表の十九の項申請情報欄に掲げる当該建物の所在する市、区、郡、町、村、字及び土地の地番並びに当該建物の家屋番号

五 別表の三十五の項申請情報欄又は同表の三十六の項申請情報欄に掲げる当該要役地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該要役地の地番、地目及び地積

六 別表の四十二の項申請情報欄イ、同表の四十六の項申請情報欄イ、同表の四十九の項申請情報欄イ、同表の五十の項申請情報欄イ、同表の五十五の項申請情報欄イ、同表の五十八の項申請情報欄イ又は同表の五十九の項申請情報欄イに掲げる他の登記所の管轄区域内にある不動産

についての第三條第七号及び第八号に掲げる事項

七 別表の四十二の項申請情報欄ロ(一)、同表の四十六の項申請情報欄へ(一)、同表の四十七の項申請情報欄ホ(一)、同表の四十九の項申請情報欄へ(一)若しくはへ(一)、同表の五十の項申請情報欄へ(一)、同表の五十六の項申請情報欄二(一)又は同表の五十八の項申請情報欄へ(一)若しくはへ(一)に掲げる当該土地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該土地の地番

八 別表の四十二の項申請情報欄ロ(二)、同表の四十六の項申請情報欄へ(二)、同表の四十七の項申請情報欄ホ(二)、同表の四十九の項申請情報欄へ(二)若しくはへ(二)、同表の五十の項申請情報欄へ(二)、同表の五十六の項申請情報欄二(二)又は同表の五十八の項申請情報欄へ(二)若しくはへ(二)に掲げる当該建物の所在する市、区、郡、町、村、字及び土地の地番並びに当該建物の家屋番号

(添付情報)

第七条 登記の申請をする場合には、次に掲げる情報をその申請情報と併せて登記所に提供しなければならない。

一 申請人が法人であるとき(法務省令で定める場合を除く。)は、次に掲げる情報

イ 会社法人等番号(商業登記法(昭和三十八年法律第二百五号)第七條(他の法令において準用する場合を含む。)に規定する会社法人等番号をいう。以下このイにおいて同じ。)を有する法人にあつては、当該法人の会社法人等番号

ロ イに規定する法人以外の法人にあつては、当該法人の代表者の資格を証する情報

二 代理人によって登記を申請するとき(法務省令で定める場合を除く。)は、当該代理人の権限を証する情報

三 民法第四百二十三條その他の法令の規定により他人に代わつて登記を申請するときは、代位原因を証する情報

四 法第三十條の規定により表示に関する登記を申請するときは、相続その他の一般承継があつたことを証する市町村長(特別区の区長を含むものとし、地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百五十二條の十九第一項の指定都市にあつては、区長又は総合区長とする。第十六條第二項及び第七十七條第一項を除き、以下同じ。)、登記官その他の公務員が職務上作成した情報(公務員が職務上作成した情報がない場合にあつては、これに代わるべき情報)

五 権利に関する登記を申請するときは、次に掲げる情報

イ 法第六十二條の規定により登記を申請するときは、相続その他の一般承継があつたことを証する市町村長、登記官その他の公務員が職務上作成した情報(公務員が職務上作成した情報がない場合にあつては、これに代わるべき情報)

ロ 登記原因を証する情報。ただし、次の(一)又は(二)に掲げる場合にあつては当該(一)又は(二)に定めるものに限るものとし、別表の登記欄に掲げる登記を申請する場合(次の(一)又は(二)に掲げる場合を除く。)にあつては同表の添付情報欄に規定するところによる。

(1) 法第六十三條第一項に規定する確定判決による登記を申請するとき 執行力のある確定判決の判決書の正本(執行力のある確定判決と同一の効力を有するもの正本を含む。以下同じ。)

(2) 法第八十條に規定する仮登記を命ずる処分があり、法第七十條第一項の規定による仮登記を申請するとき 当該仮登記を命ずる処分決定書の正本

ハ 登記原因について第三者の許可、同意又は承諾を要するときは、当該第三者が許可し、同意し、又は承諾したことを証する情報

六 前各号に掲げるもののほか、別表の登記欄に掲げる登記を申請するときは、同表の添付情報欄に掲げる情報

前項第一号及び第二号の規定は、不動産に関する国の機関の所管に属する権利について命令又は規則により指定された官庁又は公署の職員が登記の嘱託をする場合には、適用しない。

2 前項第一号及び第二号の規定は、不動産に関する国の機関の所管に属する権利について命令又は規則により指定された官庁又は公署の職員が登記の嘱託をする場合には、適用しない。

3 次に掲げる場合には、第一項第五号ロの規定にかかわらず、登記原因を証する情報を提供することを要しない。

一 所有権の保存の登記を申請する場合（敷地権付き区分建物について法第七十四条第二項の規定により所有権の保存の登記を申請する場合を除く。）

二 法第一百一十一条第一項の規定により民事保全法（平成元年法律第九十一号）第五十三条第一項の規定による処分禁止の登記（保全仮登記とともにしたものを除く。次号において同じ。）に後れる登記の抹消を申請する場合

三 法第一百一十一条第二項において準用する同条第一項の規定により処分禁止の登記に後れる登記の抹消を申請する場合

四 法第一百三十三条の規定により保全仮登記とともにした処分禁止の登記に後れる登記の抹消を申請する場合

（登記名義人が登記識別情報を提供しなれない登記等）

第八条 法第二十二條の政令で定める登記は、次のとおりとする。ただし、確定判決による登記を除く。

一 所有権の登記がある土地の合筆の登記

二 所有権の登記がある建物の合体による登記等

三 所有権の登記がある建物の合併の登記

四 共有物分割禁止の定めに係る権利の変更の登記

五 所有権の移転の登記がない場合における所有権の登記の抹消

六 質権又は抵当権の順位の変更の登記

七 民法第三百九十八條の十四第一項ただし書（同法第三百六十一條において準用する場合を含む。）の定め

八 信託法（平成十八年法律第八八号）第三条第三号に掲げる方法によってされた信託による権利の変更の登記

九 仮登記の登記名義人が単独で申請する仮登記の抹消

2 前項の登記のうち次の各号に掲げるものの申請については、当該各号に定める登記識別情報を提供すれば足りる。

一 所有権の登記がある土地の合筆の登記 当該合筆に係る土地のうちいずれか一筆の土地の所有権の登記名義人の登記識別情報

二 登記名義人が同一である所有権の登記がある建物の合体による登記等 当該合体に係る建物のうちいずれか一個の建物の所有権の登記名義人の登記識別情報

三 所有権の登記がある建物の合併の登記 当該合併に係る建物のうちいずれか一個の建物の所有権の登記名義人の登記識別情報

（添付情報の一部の省略）

第九条 第七條第六号の規定により申請情報と併せて住所を証する情報（住所について変更又は錯誤若しくは遺漏があったことを証する情報を含む。以下この条において同じ。）を提供しなければならぬものとされている場合において、その申請情報と併せて法務省令で定める情報を提供したときは、同号の規定にかかわらず、その申請情報と併せて当該住所を証する情報を提供することを要しない。

第三章 電子情報処理組織を使用する方法による登記申請の手続

（添付情報の提供方法）

第十条 電子情報処理組織を使用する方法（法第十八条第一号の規定による電子情報処理組織を使用する方法をいう。以下同じ。）により登記を申請するときは、法務省令で定めるところにより、申請情報と併せて添付情報を送信しなければならぬ。

（登記事項証明書に代わる情報の送信）

第十一条 電子情報処理組織を使用する方法により登記を申請する場合において、登記事項証明書を併せて提供しなければならぬものとされているときは、法務大臣の定めるところに従い、登

記事項証明書の提供に代えて、登記官が電気通信回線による登記情報の提供に関する法律（平成十一年法律第二百二十六号）第二条第一項に規定する登記情報の送信を同法第三条第二項に規定する指定法人から受けるために必要な情報を送信しなければならない。

（電子署名）

第十二条 電子情報処理組織を使用する方法により登記を申請するときは、申請人又はその代表者若しくは代理人は、申請情報に電子署名（電子署名及び認証業務に関する法律（平成十二年法律第二百二号）第二条第一項に規定する電子署名をいう。以下同じ。）を行わなければならない。

2 電子情報処理組織を使用する方法により登記を申請する場合における添付情報は、作成者による電子署名が行われているものでなければならない。

（表示に関する登記の添付情報の特則）

第十三条 前条第二項の規定にかかわらず、電子情報処理組織を使用する方法により表示に関する登記を申請する場合において、当該申請の添付情報（申請人又はその代表者若しくは代理人が作成したもの並びに土地所在図、地積測量図、地役権図面、建物図面及び各階平面図を除く。）が書面に記載されているときは、当該書面に記載された情報を電磁的記録に記録したものを添付情報とすることができ。この場合において、当該電磁的記録は、当該電磁的記録を作成した者による電子署名が行われているものでなければならない。

2 前項の場合において、当該申請人は、登記官が定めた相当の期間内に、登記官に当該書面を提示しなければならない。

（電子証明書の送信）

第十四条 電子情報処理組織を使用する方法により登記を申請する場合において、電子署名が行われている情報を送信するときは、電子証明書（電子署名を行った者を確認するために用いられる事項が当該者に係るものであることを証明するために作成された電磁的記録をいう。）であつて法務省令で定めるものを併せて送信しなければならない。

第四章 書面を提出する方法による登記申請の手続

（添付情報の提供方法）

第十五条 書面を提出する方法（法第十八条第二号の規定により申請情報を記載した書面（法務省令で定めるところにより申請情報の全部又は一部を記録した磁気ディスクを含む。）を登記所に提出する方法をいう。）により登記を申請するときは、申請情報を記載した書面に添付情報を記載した書面（添付情報のうち電磁的記録で作成されているものにあつては、法務省令で定めるところにより当該添付情報を記録した磁気ディスクを含む。）を添付しなければならない。この場合において、第十二条第二項及び前条の規定は、添付情報を記録した磁気ディスクを提出する場合について準用する。

（申請情報を記載した書面への記名押印等）

第十六条 申請人又はその代表者若しくは代理人は、法務省令で定める場合を除き、申請情報を記載した書面に記名押印しなければならない。

2 前項の場合において、申請情報を記載した書面には、法務省令で定める場合を除き、同項の規定により記名押印した者（委任による代理人を除く。）の印鑑に関する証明書（住所地の市町村長（特別区の区長を含むものとし、地方自治法第二百五十二条の十九第一項の指定都市にあつては、市長又は区長若しくは総合区長とする。次条第一項において同じ。）又は登記官が作成するものに限る。以下同じ。）を添付しなければならない。

3 前項の印鑑に関する証明書は、作成後三月以内のものでなければならない。

4 官庁又は公署が登記の囑託をする場合における囑託情報を記載した書面については、第二項の規定は、適用しない。

5 第十二条第一項及び第十四条の規定は、法務省令で定めるところにより申請情報の全部を記録した磁気ディスクを提出する方法により登記を申請する場合について準用する。

(代表者の資格を証する情報を記載した書面の期間制限等)
第十七条 第七条第一項第一号又は第二号に掲げる情報を記載した書面であつて、市町村長、登記官その他の公務員が職務上作成したものは、作成後三月以内のものでなければならぬ。

2 前項の規定は、官庁又は公署が登記の嘱託をする場合には、適用しない。
(代理人の権限を証する情報を記載した書面への記名押印等)

第十八条 委任による代理人によつて登記を申請する場合には、申請人又はその代表者は、法務省令で定める場合を除き、当該代理人の権限を証する情報を記載した書面に記名押印しなければならない。復代理人によつて申請する場合における代理人についても、同様とする。

2 前項の場合において、代理人(復代理人を含む)の権限を証する情報を記載した書面には、法務省令で定める場合を除き、同項の規定により記名押印した者(委任による代理人を除く)の印鑑に関する証明書を添付しなければならない。

3 前項の印鑑に関する証明書は、作成後三月以内のものでなければならぬ。
4 第二項の規定は、官庁又は公署が登記の嘱託をする場合には、適用しない。

(承諾を証する情報を記載した書面への記名押印等)
第十九条 第七条第一項第五号ハ若しくは第六号の規定又はその他の法令の規定により申請情報と併せて提供しなければならない同意又は承諾を証する情報を記載した書面には、法務省令で定める場合を除き、その作成者が記名押印しなければならない。

2 前項の書面には、官庁又は公署の作成に係る場合その他法務省令で定める場合を除き、同項の規定により記名押印した者の印鑑に関する証明書を添付しなければならない。

第五章 雑則
第二十条 (登記すべきものでないとき)
法第二十五条第十三号の政令で定める登記すべきものでないときは、次のとおりとする。

一 申請が不動産以外のものについての登記を目的とするとき。
二 申請に係る登記をすることによつて表題部所有者又は登記名義人となる者(別表の十二の項申請情報欄口に規定する被承継人及び第三条第十一号ハに規定する登記権利者を除く。)が権利能力を有しないとき。

三 申請が法第三十二条、第四十一条、第五十六条、第七十三条第二項若しくは第三項、第八十条第三項又は第九十二条の規定により登記することができないとき。
四 申請が一つの不動産の一部についての登記(承役地についてする地役権の登記を除く。)を目的とするとき。

五 申請に係る登記の目的である権利が他の権利の全部又は一部を目的とする場合において、当該他の権利の全部又は一部が登記されていないとき。
六 同一の不動産に関し同時に二以上の申請がされた場合(法第十九条第二項の規定により同時にされたものとみなされるときを含む。)において、申請に係る登記の目的である権利が相互に矛盾するとき。

七 申請に係る登記の目的である権利が同一の不動産について既にされた登記の目的である権利と矛盾するとき。
八 前各号に掲げるもののほか、申請に係る登記が民法その他の法令の規定により無効とされること申請情報若しくは添付情報又は登記記録から明らかであるとき。

(写しの交付を請求することができる図面)
第二十一条 法第二百一十一条の政令で定める図面は、土地所在図、地積測量図、地役権図面、建物図面及び各階平面図とする。

2 法第四百九条第一項の政令で定める図面は、筆界調査委員が作成した測量図その他の筆界特定の手続において測量又は実地調査に基づいて作成された図面(法第四百三十三条第二項の図面を除く。)とする。

(登記識別情報に関する証明)
第二十二条 登記名義人又はその相続人その他の一般承継人は、登記官に対し、手数料を納付し、登記識別情報が有効であることの証明その他の登記識別情報に関する証明を請求することができる。

2 法第一百九条第三項及び第四項の規定は、前項の請求について準用する。
3 前二項に定めるもののほか、第一項の証明に関し必要な事項は、法務省令で定める。

(事件の送付)
第二十三条 法第五百七十七条第二項の規定による事件の送付は、審査請求書の正本によつてする。
(意見書の提出等)

第二十四条 法第五百七十七条第二項の意見を記載した書面(次項において「意見書」という。)は、正本及び当該意見を送付すべき審査請求人の数に行政不服審査法(平成二十六年法律第六十八号)第十一条第二項に規定する審理員の数を加えた数に相当する通数の副本を提出しなければならない。

2 法第五百七十七条第二項後段の規定による意見の送付は、意見書の副本によつてする。
(行政不服審査法施行令の規定の読替)

第二十五条 法第五百六十六条第一項の審査請求に関する行政不服審査法施行令(平成二十七年政令第三百九十一号)の規定の適用については、同令第六條第二項中「法第二十九条第五項」とあるのは「不動産登記法(平成十六年法律第二百二十三号)第五百七十七条第六項の規定により読み替えて適用する法第二十九条第五項」と、「弁明書の送付」とあるのは「不動産登記法第五百七十七条第二項に規定する意見の送付」と、「弁明書の副本」とあるのは「不動産登記令(平成十六年政令第三百七十九号)第二十四条第一項に規定する意見書の副本」とする。

(登記の嘱託)
第二十六条 この政令(第二条第七号を除く。)に規定する登記の申請に関する法の規定には当該規定を法第十六条第二項において準用する場合を含むものとし、この政令中「申請」、「申請人」及び「申請情報」にはそれぞれ嘱託、嘱託者及び嘱託情報を含むものとする。
(法務省令への委任)

第二十七条 この政令に定めるもののほか、法及びこの政令の施行に関し必要な事項は、法務省令で定める。

附則
(施行期日)
第一条 この政令は、法の施行の日(平成十七年三月七日)から施行する。
(経過措置)

第二条 第三章の規定は、法附則第六條第一項の指定の日から当該指定に係る登記手続について適用する。
2 法附則第六條第一項の規定による指定がされるまでの間、各登記所の登記手続についてのこの政令の規定の適用については、第三条第十二号中「登記識別情報を提供することができない」とあるのは「登記済証を提出することができない」と、第八条第二項中「登記識別情報を提供すべし」とあるのは「法による改正前の不動産登記法(明治三十二年法律第二十四号)以下「旧法」という。第六十条第一項若しくは第六十一条の規定により還付され、若しくは交付された登記済証(法附則第八條の規定によりなお従前の例によることとされた登記の申請について旧法第六十条第一項又は第六十一条の規定により還付され、又は交付された登記済証を含む。)又は法附則第六條第一項に規定により読み替えて適用される法第二十一条若しくは第六十七條第二項の規定により交付された登記済証(以下この項において「登記済証」と総称する。)を提出すれば」と、「登記名義人の登記識別情報」とあるのは「登記名義人の登記済証」とする。

3 法附則第六條第一項の規定による指定を受けた登記手続において、同項の規定による指定がされた後、法による改正前の不動産登記法(明治三十二年法律第二十四号)以下「旧法」という。第六十条第一項若しくは第六十一条の規定により還付され、若しくは交付された登記済証(法附則第八條の規定によりなお従前の例によることとされた登記の申請について旧法第六十条第一項又は第六十一条の規定により還付され、又は交付された登記済証を含む。)又は法附則第六條第一項に規定により読み替えて適用される法第二十一条若しくは第六十七條第二項の規定により交

付された登記済証を提出して登記の申請がされたときは、登記識別情報が提供されたものとみなして、第八条第二項の規定を適用する。

第三条 この政令の施行の日が民事関係手続の改善のための民事訴訟法等の一部を改正する法律（平成十六年法律第五十二号）の施行の前日までの間における第七條第一項の規定の適用については、別表の二十六の項中「非訟事件手続法（明治三十一年法律第十四号）第四百八十八條第一項に規定する除権決定」とあるのは「公示催告手続二開スル法律（明治二十三年法律第二十九号）第七百六十九條第一項に規定する除権判決」と、「非訟事件手続法第六十條第一項の規定により」とあるのは「公示催告手続二開スル法律第七百八十四條第一項の規定により」と、「宣言する除権決定」とあるのは「宣言する除権判決」とする。（旧根拠当権の分割による権利の変更の登記の申請情報）

第四条 民法の一部を改正する法律（昭和四十六年法律第九十九号）附則第五条第一項の規定による分割による権利の変更の登記の申請においては、第三条第一号から第八号まで、第十一号イ、ロ及びニ並びに第十二号に掲げる事項のほか、法第八十三條第一項第二号及び第三号並びに法第八十八條第二項第一号から第三号までに掲げる登記事項を申請情報の内容とする。

第五条 電子情報処理組織を使用する方法により登記の申請をする場合において、添付情報（登記識別情報を除く。以下同じ。）が書面に記載されているときは、第十条及び第十二條第二項の規定にかかわらず、当分の間、当該書面を登記所に提出する方法により添付情報を提供することができる。

2 前項の規定により添付情報を提供する場合には、その旨をも法第十八條の申請情報の内容とする。

3 第十七条及び第十九條の規定は第一項の規定により添付情報を提供する場合について、第十八條の規定は同項の規定により委任による代理人（復代理人を含む。）の権限を証する情報を提供する場合同項の規定により書面を提出する方法により当該登記原因を証する情報を提供するとき、法務省令で定めるところにより、申請情報と併せて当該書面に記載された情報を記録した電磁的記録を提供しなければならない。この場合においては、第十二條第二項の規定は、適用しない。

附則（平成一七年三月九日政令第三七号）
この政令は、民法の一部を改正する法律の施行の日（平成十七年四月一日）から施行する。

附則（平成一七年一月十七日政令第三三七号）
この政令は、不動産登記法等の一部を改正する法律の施行の日（平成十八年一月二十日）から施行する。

附則（平成一九年七月一三日政令第二〇七号）
この政令は、信託法の施行の日から施行する。

附則（平成一九年二月二七日政令第三九〇号）
この政令は、平成二十年一月一日から施行する。

附則（平成二〇年一月二一日政令第二一号）
（施行期日）
この政令は、平成二十年一月十五日（附則第三項において「施行日」という。）から施行する。

（経過措置）
2 この政令の規定は、不動産登記法（次項において「法」という。）附則第六条第一項の指定の日から当該指定に係る登記手続について適用する。

3 施行日前に法附則第六条第一項の規定による指定がされている場合において、施行日前にされた登記の申請に係る登記に関する手続については、なお従前の例による。

附則（平成二二年一月二二日政令第四号）
この政令は、信託法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律附則第三号に掲げる規定の施行の日（平成二十二年七月一日）から施行する。

附則（平成二三年七月二九日政令第二三七号）抄

1 この政令は、高齢者の居住の安定確保に関する法律等の一部を改正する法律（次項において「改正法」という。）の施行の日（平成二十三年十月二十日）から施行する。

附則（平成二四年七月一九日政令第一九七号）
この政令は、新非訟事件手続法の施行の日（平成二十五年一月一日）から施行する。

附則（平成二五年九月一三日政令第二七一号）
この政令は、大規模な災害の被災地における借地借家に関する特別措置法の施行の日（平成二五年九月二十五日）から施行する。

附則（平成二七年一月三〇日政令第三〇号）抄
（施行期日）
第一条 この政令は、地方自治法の一部を改正する法律（次条において「改正法」という。）の施行の日（平成二十八年四月一日）から施行する。

附則（平成二七年七月一日政令第二六二号）
（施行期日）
1 この政令は、平成二十七年十一月二日から施行する。ただし、第一条中不動産登記令別表の三十二の項の改正規定は、公布の日から施行する。

2 この政令の施行前にされた登記の申請については、第一条の規定による改正後の不動産登記令第七條第一項第一号及び第十七條第一項の規定、第二条の規定による改正後の船舶登記令第十三條第一項第一号及び第四号並びに第三項並びに第二十七條第一項第一号の規定、第三条の規定による改正後の農業用財産抵当登記令第十條第一号の規定、第四条の規定による改正後の建設機械登記令第八條第一項第一号の規定並びに第五条の規定による改正後の企業担保登記登録令第八條第一項第一号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則（平成二七年一月二六日政令第三九二号）抄
（施行期日）
第一条 この政令は、行政不服審査法の施行の日（平成二十八年四月一日）から施行する。

（経過措置の原則）
第二条 行政庁の処分その他の行為又は不作為についての不服申立てであつてこの政令の施行前にされた行政庁の処分その他の行為又はこの政令の施行前にされた申請に係る行政庁の不作為に係るものについては、この附則に特別の定めがある場合を除き、なお従前の例による。

附則（平成三〇年六月六日政令第一八三号）
この政令は、民法の一部を改正する法律の施行の日（令和二年四月一日）から施行する。

附則（令和元年六月二八日政令第四四号）抄
（施行期日）
第一条 この政令は、不正競争防止法等の一部を改正する法律の施行の日（令和元年七月一日）から施行する。

附則（令和元年二月二三日政令第一八三号）抄
（施行期日）
第一条 この政令は、情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るための行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律等の一部を改正する法律（次条において「改正法」という。）の施行の日（令和元年十二月十六日）から施行する。

附則（令和二年三月二五日政令第五七号）
この政令は、民法及び家事事件手続法の一部を改正する法律附則第一条第四号に掲げる規定の施行の日（令和二年四月一日）から施行する。

別表（第三条、第七条関係）

<p>三 十 合体による登記等イ 合体後の建物について敷イ (法第四十九条第一項)地権が存するときは、次に掲 項後段の規定により掲イ 併せて申請をする所(1) 敷地権の目的となる土 有権の登記があるとき、次に掲イ きは、これを含む。</p>	<p>該区分建物の敷地権とならないときは、当該 事由を証する情報 へ 建物又は附属建物について敷地権が存す るときは、次に掲げる情報 (1) 敷地権の目的である土地が区分所有法 第五条第一項の規定により建物の敷地となつ た土地であるときは、同項の規約を設定した ことを証する情報 (2) 敷地権が区分所有法第二十二條第二項 ただし書(同条第三項において準用する場合 を含む。以下同じ。)の規約で定められている 割合によるものであるときは、当該規約を設 定したことを証する情報 (3) 敷地権の目的である土地が他の登記所 の管轄区域内にあるときは、当該土地の登記 事項証明書 ト 法第四十七條第二項の規定による申請に あつては、相続その他の一般承継があつたこ とを証する市町村長、登記官その他の公務員 が職務上作成した情報(公務員が職務上作成 した情報がない場合にあつては、これに代わ るべき情報)</p>
<p>口 合体前の建物に所有権の地について登記された所有権、地上権又は賃 登記がある建物があるとき借権の登記名義人が当該区分建物の所有者で は、当該所有権の登記があるあり、かつ、区分所有法第二十二條第一項た 建物の家屋番号並びに当該所だし書の規約における別段の定めがあること 有権の登記の申請の受付の年その他の事由により当該所有権、地上権又は 月日及び受付番号、順位事項賃借権が当該区分建物の敷地権とならないと 並びに登記名義人の氏名又はき(合体前の二以上の建物がいづれも敷地権 名称 ハ 合体前の建物についてその建物も敷地権の登記がない区分建物となる れた所有権の登記以外の所有るときを除く。は、当該事由を証する情報 権に関する登記又は先取特へ 合体後の建物について敷地権が存すると 権、質権若しくは抵当権に関し(合体前の二以上の建物がいづれも敷地権 する登記であつて合体後の建付け区分建物であり、かつ、合体後の建物も 物について存続することとな敷地権付き区分建物となるとき(合体前の建 るもの(以下この項において物のすべての敷地権の割合を合算した敷地権</p>	<p>イ 建物図面 ロ 各階平面図 ハ 表題部所有者となる者が所有権を有する ことを証する情報 ニ 表題部所有者となる者の住所を証する市 町村長、登記官その他の公務員が職務上作成 した情報(公務員が職務上作成した情報とな らない場合は、これに代わるべき情報) ホ 合体後の建物がある場合にお いて、当該区分建物が一棟の建物の敷 地権として登記された所有権、地上権又は賃 借権の登記がある建物があるとき、当該区分 建物の所有者である者が所有権を有する ことを証する情報 ヘ 表題部所有者となる者の住所を証する市 町村長、登記官その他の公務員が職務上作成 した情報(公務員が職務上作成した情報とな らない場合は、これに代わるべき情報)</p>
<p>四 十 法第五十一條第一項イ 変更後又は更正後の登記 から第四項までの規事項 定による建物の表題ロ 当該変更の登記又は更正 部の変更の登記又はの登記が敷地権に関するもの 法第五十三條第一項であるときは、変更前又は更 正後の登記の正前における次に掲げる事項(1) 変 更後又は更正後の建物図面及び各階 平面図 (2) 床面積が増加するときは、床面積が増 加した部分について表題部所有者又は所有権 の登記名義人が所有権を有することを証する 情報 ハ 附属建物を新築したときは、変更後の建 物図面及び各階平面図並びに附属建物につい</p>	<p>「存続登記」という。)がある割合が合体後の建物の敷地権の割合となる ときは、次に掲げる事項(場合に限る。)を除く。を、次に掲げる情報 (1) 当該合体前の建物の家(1) 敷地権の目的である土地が区分所有法 屋番号 第五条第一項の規定により建物の敷地となつ (2) 存続登記の目的、申請した土地であるときは、同項の規約を設定した の受付の年月日及び受付番ことを証する情報 号、順位事項並びに登記名義(2) 敷地権が区分所有法第二十二條第二項 人の氏名又は名称 ただし書の規約で定められている割合による (3) 存続登記の目的となるものであるときは、当該規約を設定したこと を証する情報 ニ 存続登記がある建物の所(3) 敷地権の目的である土地が他の登記所 有権の登記名義人が次に掲げの管轄区域内にあるときは、当該土地の登記 する者同一の者であるとき事項証明書 は、これらの者が同一の者でト 合体後の建物の持分について存続登記と ないものとみなした場合にお同一の登記をするときは、当該存続登記に係 ける持分(二以上の存続登記の権利の登記名義人が当該登記を承諾したこ がある場合において、当該二を証する当該登記名義人が作成した情報又 以上の存続登記の登記の目には当該登記名義人に對抗することができ 的、申請の受付の年月日及び判があつたことを証する情報 受付番号、登記原因及びそのチ トの存続登記に係る権利が抵当証券の発 日付並びに登記名義人がいず行されている抵当権であるときは、当該抵当 れも同一であるときの当該二証券の所持人若しくは裏書人が当該存続登記 以上の存続登記の目的である同一の登記を承諾したことを証するこれら 所有権の登記名義人に係る持の者が作成した情報又はこれらの者に対抗す 分を除く。) (1) 合体前の表題登記がな報及び当該抵当証券 い他の建物の所有者 リ 法第四十九條第一項後段の規定により併 (2) 合体前の表題登記があせて申請をする所有権の登記があるときは、 る他の建物(所有権の登記が登記名義人となる者の住所を証する市町村 ある建物を除く。)の表題部長、登記官その他の公務員が職務上作成した 所有者 情報(公務員が職務上作成した情報がない場 (3) 合体前の所有権の登記 合にあつては、これに代わるべき情報) がある他の建物の所有権の登 記名義人</p>

<p>五十</p> <p>敷地権の発生若しくは消滅を原因とするの所在する市、区、郡、町の登記又は敷地権の番、地目及び地積の登記又は敷地権の存在若しくは不存在を原因とする建物のハ敷地権の登記原因及びその表題部の更正の登記の日付</p>	<p>(3) 敷地権の登記原因及びその日付</p> <p>有て表題部所有者又は所有権の登記名義人が所有権を有することを証する情報</p> <p>ニ 共用部分である旨の登記又は団地共用部分である旨の登記がある建物について申請をするときは、当該建物の所有者を証する情報</p> <p>イ 区分所有法第五項の規約を設定したことに従って敷地権が生じたときは、当該規約を設定したことを証する情報</p> <p>ロ イの規約を廃止したことに従って区分所有者の有する専有部分とその専有部分に係る敷地利用権とを分離して処分することができることとなったときは、当該規約を廃止したことを証する情報</p> <p>ハ 区分所有法第二十二條第一項ただし書の規約における別段の定めがあることその他の事由により区分所有者の有する専有部分とを分離して処分することができることとなったときは、当該事由を証する情報</p> <p>ニ 登記された権利であつて敷地権でなかつたものがハの規約の変更その他の事由により敷地権となつたときは、当該事由を証する情報</p> <p>ホ イ及びニの場合には、次に掲げる情報</p> <p>(一) 敷地権が区分所有法第二十二條第二項ただし書の規約で定められている割合によるものであるときは、当該規約を設定したことを証する情報</p> <p>(二) 敷地権の目的である土地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該土地の登記事項証明書</p>	<p>六十</p> <p>建物の分割の登記、建物の区分の登記又は建物の合併の登記</p>	<p>イ 分割後、区分後又は合併後の建物についての第三條第一項各号(ロを除く。)に掲げる事項</p> <p>ロ 分割前、区分前若しくは合併前の建物又は当該分割後、区分後若しくは合併後の建物について敷地権が存するときは、当該敷地権に関する次に掲げる事項</p> <p>(一) 敷地権の目的となる土地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該土地の番、地目及び地積</p> <p>(二) 敷地権の種類及び割合</p> <p>イ 当該分割後、区分後又は合併後の建物区分及び各階平面図</p> <p>ロ 共用部分である旨の登記又は団地共用部分である旨の登記がある建物について建物の分割の登記又は建物の区分の登記を申請するときは、当該建物の所有者を証する情報</p> <p>ハ 建物の区分の登記を申請する場合において、区分後の建物について敷地権が存するときは、次に掲げる情報(区分建物である建物について建物の区分の登記を申請するとき(一)及び(三)を除く。)</p> <p>(一) 敷地権の目的である土地が区分所有法第五條第一項の規定により建物の敷地となつた土地であるときは、同項の規約を設定したことを証する情報</p> <p>(二) 敷地権が区分所有法第二十二條第二項ただし書の規約で定められている割合による</p>
<p>七十</p> <p>共用部分である旨の登記又は団地共用部分である旨の登記がある建物の滅失の登記</p>	<p>(3) 敷地権の登記原因及びその日付</p> <p>を証する情報</p> <p>(3) 敷地権の目的である土地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該土地の登記事項証明書</p> <p>当該建物の所有者を証する情報</p>	<p>八十</p> <p>共用部分である旨の登記</p>	<p>イ 団地共用部分である旨の登記又は建物の区分建物の登記</p> <p>ロ 所有権以外の権利に関する登記があるとき、字及び土地の番並びに当該建物の家屋番号</p> <p>ロ 団地共用部分である旨の登記又は建物の区分建物の登記を申請するときは、次に掲げる事項</p> <p>(一) 当該建物に属する一棟の建物の所在する市、区、郡、町、村、字及び土地の番並びに当該建物の構造及び床面積又はその名称</p> <p>イ 共用部分である旨を定めた規約を設定し、当該規約を証する情報</p> <p>ロ 当該権利に関する登記に係る権利の登記名義人(当該権利に關する登記が抵当権の場合においては、抵当証券が発行されたときは、当該証券の所持人又は裏書人を含む。)の承諾を証する当該登記名義人が作成した情報又は当該登記名義人に対する裁判があつたことを証する情報</p> <p>ハ ロの権利を目的とする第三者の権利に関する登記があるときは、当該第三者の承諾を証する当該第三者が作成した情報又は当該第三者に対抗することができる裁判があつたことを証する情報</p> <p>ニ ロの権利に関する登記に係る権利が抵当証券の発行されている抵当権であるときは、当該抵当証券</p>

<p>二十 所有権の保存の登記 （法第七十四条第一項各号に掲げる者が申請するものに限る。）</p>	<p>イ 申請人が法第七十四条第一項各号に掲げる者のいずれかであるか。 ロ 法第七十四条第一項第二号又は第三号に掲げる者が表題登記がない建物について申請する場合において、当該表題登記がない建物について申請する場合には、当該表題登記がない建物の所在が知れないことを証する情報</p>	<p>イ 表題部所有者の相続人その他の一般承継人が申請するときは、相続その他の一般承継による承継を証する情報（市町村長、登記官その他の公務員が職務上作成した情報（公務員が職務上作成した情報がない場合にあつては、これに代わるべき情報）を含むものに限る。）</p>
<p>七十 抹消された登記の回復</p>	<p>イ 登記原因を証する情報 ロ 登記上の利害関係を有する第三者（当該登記の回復につき利害関係を有する抵当証券の所持人又は裏書人を含む。）があるときは、当該第三者の承諾を証する当該第三者が作成した情報又は当該第三者に対抗することができると認められたことを証する情報 ハ ロの第三者が抵当証券の所持人又は裏書人であるときは、当該抵当証券</p>	<p>イ 登記原因を証する情報 ロ 登記上の利害関係を有する第三者（当該登記の回復につき利害関係を有する抵当証券の所持人又は裏書人を含む。）があるときは、当該第三者の承諾を証する当該第三者が作成した情報又は当該第三者に対抗することができると認められたことを証する情報 ハ ロの第三者が抵当証券の所持人又は裏書人であるときは、当該抵当証券</p>
<p>七十 抹消された登記の回復</p>	<p>イ 登記原因を証する情報 ロ 登記上の利害関係を有する第三者（当該登記の回復につき利害関係を有する抵当証券の所持人又は裏書人を含む。）があるときは、当該第三者の承諾を証する当該第三者が作成した情報又は当該第三者に対抗することができると認められたことを証する情報 ハ ロの第三者が抵当証券の所持人又は裏書人であるときは、当該抵当証券</p>	<p>（2） 登記義務者の所在が知れないことを証する情報 ニ 法第七十条第三項後段の規定により登記権利者が単独で先取特権、質権又は抵当権に関する登記の抹消を申請するときは、次に掲げる情報 （1） 被担保債権の弁済期を証する情報 （2） （1）の弁済期から二十年を経過した後、に当該被担保債権、その利息及び債務不履行により生じた損害の全額に相当する金銭が供託されたことを証する情報 （3） 登記義務者の所在が知れないことを証する情報 ホ イからニまでに規定する申請以外の場合にあつては、登記原因を証する情報 ヘ 登記上の利害関係を有する第三者（当該登記の抹消につき利害関係を有する抵当証券の所持人又は裏書人を含む。）があるときは、当該第三者の承諾を証する当該第三者が作成した情報又は当該第三者に対抗することができると認められたことを証する情報 ト ヘの第三者が抵当証券の所持人又は裏書人であるときは、当該抵当証券 チ 抵当証券が発行されている抵当権の登記の抹消を申請するときは、当該抵当証券 リ 抵当証券交付の登記の抹消を申請するときは、当該抵当証券又は非訟事件手続法第一百八条第一項の規定により当該抵当証券を無効とする旨を宣言する除権決定があつたことを証する情報</p>
<p>七十 抹消された登記の回復</p>	<p>イ 登記原因を証する情報 ロ 登記上の利害関係を有する第三者（当該登記の回復につき利害関係を有する抵当証券の所持人又は裏書人を含む。）があるときは、当該第三者の承諾を証する当該第三者が作成した情報又は当該第三者に対抗することができると認められたことを証する情報 ハ ロの第三者が抵当証券の所持人又は裏書人であるときは、当該抵当証券</p>	<p>題登記がない建物が敷地権のある区分建物であるときは、申請するときは、所有権を有することが確定する情報 （1） 敷地権の目的となる土地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該土地の地番、地目及び地積 （2） 敷地権の種類及び割合 （3） 登記名義人となる者の住所を証する市町村長、登記官その他の公務員が職務上作成した情報（公務員が職務上作成した情報がない場合にあつては、これに代わるべき情報） ホ 法第七十四条第一項第二号又は第三号に掲げる者が表題登記がない土地について申請するときは、当該土地についての土地所在図及び地積測量図 ヘ 法第七十四条第一項第二号又は第三号に掲げる者が表題登記がない建物について申請するときは、当該建物についての建物図面及び各階平面図 ト ヘに規定する場合（当該表題登記がない建物が区分建物である場合に限る。）において、当該区分建物が属する一棟の建物の敷地について登記された所有権、地上権又は賃借権の登記名義人が当該区分建物の所有者であり、かつ、区分所有法第二十二條第一項ただし書の規約における別段の定めがあることその他の事由により当該所有権、地上権又は賃借権が当該区分建物の敷地権とならないときは、当該事由を証する情報 チ ヘに規定する場合において、当該表題登記がない建物が敷地権のある区分建物であるときは、次に掲げる情報 （1） 敷地権の目的である土地が区分所有法第五條第一項の規定により建物の敷地となつた土地であるときは、同項の規約を設定したことを証する情報 （2） 敷地権が区分所有法第二十二條第二項ただし書の規約で定められている割合によるものであるときは、当該規約を設定したことを証する情報 （3） 敷地権の目的である土地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該土地の登記事項証明書</p>

<p>二十 所有権の保存の登記法第七十四条第二項の規定に（法第七十四条第二項より登記を申請する旨）の項の規定により表題部所有者から所有権を取得した者が申請するものに限る。）</p>	<p>イ 建物が敷地権のない区分建物であるときは、申請人が表題部所有者から当該区分建物の所有権を取得したことを証する表題部所有者又はその相続人その他の一般承継人が作成した情報 ロ 建物が敷地権付き区分建物であるときは、登記原因を証する情報及び敷地権の登記名義人の承諾を証する当該登記名義人が作成した情報 ハ 登記名義人となる者の住所を証する市町村長、登記官その他の公務員が職務上作成した情報（公務員が職務上作成した情報がない場合にあっては、これに代わるべき情報） イ 登記原因を証する情報 ロ 登記名義人となる者の住所を証する市町村長、登記官その他の公務員が職務上作成した情報（公務員が職務上作成した情報がない場合にあっては、これに代わるべき情報） イ 登記原因を証する情報 ロ 当該土地についての土地所在図及び地積測量図</p>	<p>十三 表題登記がない土地の処分の制限の登記</p>	<p>イ 登記原因を証する情報 ロ 当該表題登記がない建物についての建物図面及び各階平面図 ハ 当該表題登記がない建物が区分建物である場合において、当該区分建物が属する一棟の建物の敷地について登記された所有権、地上権又は賃借権の登記名義人が当該区分建物の所有者であり、かつ、区分所有法第二十二條第一項ただし書の規約における別段の定めがあることその他の他の事由により当該所有権、地上権又は賃借権が当該区分建物の敷地権とならないときは、当該事由を証する情報 ニ 当該表題登記がない建物が敷地権のある区分建物であるときは、次に掲げる情報 （一）敷地権の目的である土地が区分所有法第五條第一項の規定により建物の敷地となつた土地であるときは、同項の規約を設定したことを証する情報 （二）敷地権が区分所有法第二十二條第二項ただし書の規約で定められている割合によるものであるときは、当該規約を設定したことを証する情報 （三）敷地権の目的である土地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該土地の登記事項証明書</p>	<p>三十 表題登記がない建物当該表題登記がない建物が敷地権のある区分建物であることその他の他の事由により当該所有権、地上権又は賃借権が当該区分建物の敷地権とならないときは、当該事由を証する情報</p>	<p>イ 登記原因を証する情報 ロ 当該表題登記がない建物についての建物図面及び各階平面図 ハ 当該表題登記がない建物が区分建物である場合において、当該区分建物が属する一棟の建物の敷地について登記された所有権、地上権又は賃借権の登記名義人が当該区分建物の所有者であり、かつ、区分所有法第二十二條第一項ただし書の規約における別段の定めがあることその他の他の事由により当該所有権、地上権又は賃借権が当該区分建物の敷地権とならないときは、当該事由を証する情報 ニ 当該表題登記がない建物が敷地権のある区分建物であるときは、次に掲げる情報 （一）敷地権の目的である土地が区分所有法第五條第一項の規定により建物の敷地となつた土地であるときは、同項の規約を設定したことを証する情報 （二）敷地権が区分所有法第二十二條第二項ただし書の規約で定められている割合によるものであるときは、当該規約を設定したことを証する情報 （三）敷地権の目的である土地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該土地の登記事項証明書</p>	<p>三十 表題登記がない土地の処分の制限の登記</p>	<p>イ 登記原因を証する情報 ロ 当該表題登記がない建物についての建物図面及び各階平面図 ハ 当該表題登記がない建物が区分建物である場合において、当該区分建物が属する一棟の建物の敷地について登記された所有権、地上権又は賃借権の登記名義人が当該区分建物の所有者であり、かつ、区分所有法第二十二條第一項ただし書の規約における別段の定めがあることその他の他の事由により当該所有権、地上権又は賃借権が当該区分建物の敷地権とならないときは、当該事由を証する情報 ニ 当該表題登記がない建物が敷地権のある区分建物であるときは、次に掲げる情報 （一）敷地権の目的である土地が区分所有法第五條第一項の規定により建物の敷地となつた土地であるときは、同項の規約を設定したことを証する情報 （二）敷地権が区分所有法第二十二條第二項ただし書の規約で定められている割合によるものであるときは、当該規約を設定したことを証する情報 （三）敷地権の目的である土地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該土地の登記事項証明書</p>	<p>三十 表題登記がない土地の処分の制限の登記</p>	<p>イ 登記原因を証する情報 ロ 当該表題登記がない建物についての建物図面及び各階平面図 ハ 当該表題登記がない建物が区分建物である場合において、当該区分建物が属する一棟の建物の敷地について登記された所有権、地上権又は賃借権の登記名義人が当該区分建物の所有者であり、かつ、区分所有法第二十二條第一項ただし書の規約における別段の定めがあることその他の他の事由により当該所有権、地上権又は賃借権が当該区分建物の敷地権とならないときは、当該事由を証する情報 ニ 当該表題登記がない建物が敷地権のある区分建物であるときは、次に掲げる情報 （一）敷地権の目的である土地が区分所有法第五條第一項の規定により建物の敷地となつた土地であるときは、同項の規約を設定したことを証する情報 （二）敷地権が区分所有法第二十二條第二項ただし書の規約で定められている割合によるものであるときは、当該規約を設定したことを証する情報 （三）敷地権の目的である土地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該土地の登記事項証明書</p>	<p>三十 表題登記がない土地の処分の制限の登記</p>	<p>イ 登記原因を証する情報 ロ 当該表題登記がない建物についての建物図面及び各階平面図 ハ 当該表題登記がない建物が区分建物である場合において、当該区分建物が属する一棟の建物の敷地について登記された所有権、地上権又は賃借権の登記名義人が当該区分建物の所有者であり、かつ、区分所有法第二十二條第一項ただし書の規約における別段の定めがあることその他の他の事由により当該所有権、地上権又は賃借権が当該区分建物の敷地権とならないときは、当該事由を証する情報 ニ 当該表題登記がない建物が敷地権のある区分建物であるときは、次に掲げる情報 （一）敷地権の目的である土地が区分所有法第五條第一項の規定により建物の敷地となつた土地であるときは、同項の規約を設定したことを証する情報 （二）敷地権が区分所有法第二十二條第二項ただし書の規約で定められている割合によるものであるときは、当該規約を設定したことを証する情報 （三）敷地権の目的である土地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該土地の登記事項証明書</p>	<p>三十 表題登記がない土地の処分の制限の登記</p>	<p>イ 登記原因を証する情報 ロ 当該表題登記がない建物についての建物図面及び各階平面図 ハ 当該表題登記がない建物が区分建物である場合において、当該区分建物が属する一棟の建物の敷地について登記された所有権、地上権又は賃借権の登記名義人が当該区分建物の所有者であり、かつ、区分所有法第二十二條第一項ただし書の規約における別段の定めがあることその他の他の事由により当該所有権、地上権又は賃借権が当該区分建物の敷地権とならないときは、当該事由を証する情報 ニ 当該表題登記がない建物が敷地権のある区分建物であるときは、次に掲げる情報 （一）敷地権の目的である土地が区分所有法第五條第一項の規定により建物の敷地となつた土地であるときは、同項の規約を設定したことを証する情報 （二）敷地権が区分所有法第二十二條第二項ただし書の規約で定められている割合によるものであるときは、当該規約を設定したことを証する情報 （三）敷地権の目的である土地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該土地の登記事項証明書</p>
<p>用益権に関する登記 三十一 地上権の設定の登記 法第七十八條各号に掲げる登記事項 イ 借地借家法（平成三年法律第九十号）第二十二條前段の定めがある地上権の設定にあっては、同条後段の書面及びその他の登記原因を証する情報（登記原因を証する情報として執行力のある確定判決の判決書の正本が提供されたときを除く。） ロ 借地借家法第二十三條第一項又は第二項に規定する借地権に当たる地上権の設定にあっては、同条第三項の公正証書の謄本（登記原因を証する情報として執行力のある確定判決の判決書の正本が提供されたときを除く。） ハ 大規模な災害の被災地における借地借家に関する特別措置法（平成二十五年法律第六十一号）第七條第一項の定めがある地上権の設定にあっては、同条第三項の書面（登記原因を証する情報として執行力のある確定判決の判決書の正本が提供されたときを除く。） ニ イからハまでに規定する地上権の設定以外の場合にあっては、登記原因を証する情報</p>	<p>三十二 永小作権の設定の登記 法第七十九條各号に掲げる登記事項 イ 登記原因を証する情報 ロ 地役権設定の範囲が承役地の一部である地役権の設定の登記 ハ 要役地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該要役地の地番、地目及び地積 ニ 要役地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該要役地の登記事項証明書</p>	<p>三十三 地役権の変更の登記 又は更正の登記 法第八十條各号に掲げる登記事項 イ 登記原因を証する情報 ロ 地役権設定の範囲の変更の登記又は更正の登記の申請をする場合において、変更後又は更正後の地役権設定の範囲が承役地の一部であるときは、当該要役地の登記の申請をする場合において、変更後又は更正後の地役権設定の範囲が承役地の一部であるときは、地役権図面 ハ 要役地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該要役地の登記事項証明書 ニ 付記登記によつてする地役権の変更の登記又は更正の登記を申請する場合において、登記上の利害関係を有する第三者（地役権の変更の登記又は更正の登記につき利害関係を有する抵当証券の所持人又は裏書人を含む。）があるときは、当該第三者の承諾を証する当該第三者が作成した情報又は当該第三者に對抗することができる裁判があつたことを証する情報</p>	<p>三十四 承役地についてする法第八十條第一項各号に掲げる登記事項（同項第一号に掲げる登記事項にあっては、当該要役地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該要役地の地番、地目及び地積） イ 登記原因を証する情報 ロ 地役権設定の範囲が承役地の一部である地役権の設定の登記 ハ 要役地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該要役地の地番、地目及び地積 ニ 要役地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該要役地の登記事項証明書</p>	<p>三十五 地役権の変更の登記 又は更正の登記 法第八十條各号に掲げる登記事項 イ 登記原因を証する情報 ロ 地役権設定の範囲の変更の登記又は更正の登記の申請をする場合において、変更後又は更正後の地役権設定の範囲が承役地の一部であるときは、当該要役地の登記の申請をする場合において、変更後又は更正後の地役権設定の範囲が承役地の一部であるときは、地役権図面 ハ 要役地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該要役地の登記事項証明書 ニ 付記登記によつてする地役権の変更の登記又は更正の登記を申請する場合において、登記上の利害関係を有する第三者（地役権の変更の登記又は更正の登記につき利害関係を有する抵当証券の所持人又は裏書人を含む。）があるときは、当該第三者の承諾を証する当該第三者が作成した情報又は当該第三者に對抗することができる裁判があつたことを証する情報</p>	<p>三十六 地役権の変更の登記 又は更正の登記 法第八十條各号に掲げる登記事項 イ 登記原因を証する情報 ロ 地役権設定の範囲の変更の登記又は更正の登記の申請をする場合において、変更後又は更正後の地役権設定の範囲が承役地の一部であるときは、当該要役地の登記の申請をする場合において、変更後又は更正後の地役権設定の範囲が承役地の一部であるときは、地役権図面 ハ 要役地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該要役地の登記事項証明書 ニ 付記登記によつてする地役権の変更の登記又は更正の登記を申請する場合において、登記上の利害関係を有する第三者（地役権の変更の登記又は更正の登記につき利害関係を有する抵当証券の所持人又は裏書人を含む。）があるときは、当該第三者の承諾を証する当該第三者が作成した情報又は当該第三者に對抗することができる裁判があつたことを証する情報</p>	<p>三十七 地役権の変更の登記 又は更正の登記 法第八十條各号に掲げる登記事項 イ 登記原因を証する情報 ロ 地役権設定の範囲の変更の登記又は更正の登記の申請をする場合において、変更後又は更正後の地役権設定の範囲が承役地の一部であるときは、当該要役地の登記の申請をする場合において、変更後又は更正後の地役権設定の範囲が承役地の一部であるときは、地役権図面 ハ 要役地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該要役地の登記事項証明書 ニ 付記登記によつてする地役権の変更の登記又は更正の登記を申請する場合において、登記上の利害関係を有する第三者（地役権の変更の登記又は更正の登記につき利害関係を有する抵当証券の所持人又は裏書人を含む。）があるときは、当該第三者の承諾を証する当該第三者が作成した情報又は当該第三者に對抗することができる裁判があつたことを証する情報</p>							

七十	地役権の登記の抹消		<p>ホ 二の第三者が抵当証券の所持人又は裏書人であるときは、当該抵当証券</p> <p>イ 登記原因を証する情報</p> <p>ロ 要役地が他の登記所の管轄区域内にあるときは、当該要役地の登記事項証明書</p> <p>ハ 登記上の利害関係を有する第三者（当該登記の抹消につき利害関係を有する抵当証券の所持人又は裏書人を含む。）があるときは、当該第三者の承諾を証する当該第三者が作成した情報又は当該第三者に対抗することができる裁判があつたことを証する情報</p> <p>ニ ハの第三者が抵当証券の所持人又は裏書人であるときは、当該抵当証券</p>
八十	賃借権の設定の登記	<p>三 賃借権の設定の登記法第八十一条各号に掲げる登記事項</p>	<p>イ 借地借家法第二十二条前段の定めがある賃借権の設定にあつては、同条後段の書面及びその他の登記原因を証する情報（登記原因を証する情報として執行力のある確定判決の判決書の正本が提供されたときを除く。）</p> <p>ロ 借地借家法第二十三条第一項又は第二項に規定する借地権に当たる賃借権の設定にあつては、同条第三項の公正証書の謄本（登記原因を証する情報として執行力のある確定判決の判決書の正本が提供されたときを除く。）</p> <p>ハ 借地借家法第三十八条第一項前段の定めがある賃借権の設定にあつては、同項前段の書面（登記原因を証する情報として執行力のある確定判決の判決書の正本が提供されたときを除く。）</p> <p>ニ 借地借家法第三十九条第一項の規定による定めのある賃借権の設定にあつては、同条第二項の書面及びその他の登記原因を証する情報（登記原因を証する情報として執行力のある確定判決の判決書の正本が提供されたときを除く。）</p> <p>ホ 高齢者の居住の安定確保に関する法律（平成十三年法律第二十六号）第五十二条の定めがある賃借権の設定にあつては、同条の書面（登記原因を証する情報として執行力のある確定判決の判決書の正本が提供されたときを除く。）</p> <p>ヘ 大規模な災害の被災地における借地借家に関する特別措置法第七条第一項の定めがある賃借権の設定にあつては、同条第三項の書面（登記原因を証する情報として執行力のある確定判決の判決書の正本が提供されたときを除く。）</p> <p>ト 建物が配偶者居住権の登記のある建物であるときは、当該建物の所有者が賃借権の設</p>
九十	賃借物の転貸の登記	<p>三 賃借物の転貸の登記法第八十一条各号に掲げる登記事項</p>	<p>定の登記の登記名義人となる者に当該建物の使用又は収益をさせることを承諾したことを証する当該所有者が作成した情報（当該登記名義人となる者に当該建物の使用又は収益をさせることを許す旨の定めのある場合を除く。）</p> <p>チ イからトまでに規定する賃借権の設定以外の場合にあつては、登記原因を証する情報</p> <p>イ 登記原因を証する情報</p> <p>ロ 賃貸人が賃借物の転貸を承諾したことを証する当該賃貸人が作成した情報又は借地借家法第十九条第一項前段若しくは大規模な災害の被災地における借地借家に関する特別措置法第五条第一項前段に規定する承諾に代わる許可があつたことを証する情報（賃借物の転貸を許す旨の定めのあるときを除く。）</p>
四十	賃借権の移転の登記	<p>四 賃借権の移転の登記法第八十一条の二各号に掲げる登記事項</p>	<p>イ 登記原因を証する情報</p> <p>ロ 賃貸人が賃借権の譲渡を承諾したことを証する当該賃貸人が作成した情報又は借地借家法第十九条第一項前段若しくは第二十条第一項前段若しくは大規模な災害の被災地における借地借家に関する特別措置法第五条第一項前段に規定する承諾に代わる許可があつたことを証する情報（賃借権の譲渡を許す旨の定めのあるときを除く。）</p>
四十	配偶者居住権の設定の登記	<p>四 配偶者居住権の設定の登記法第八十一条の二各号に掲げる登記事項</p>	<p>登記原因を証する情報</p>
四十	採石権の設定の登記	<p>四 採石権の設定の登記法第八十二条各号に掲げる登記事項</p>	<p>登記原因を証する情報</p>
四十	担保権等に関する登記	<p>四 先取特権の保存の登記（四十三の項及び二十四の項の登記を除く。）</p>	<p>登記原因を証する情報</p> <p>イ 法第八十三条第一項各号に掲げる登記事項（同項第四号に掲げる事項を除く。）</p> <p>ロ 法第八十三条第一項各号に掲げる事項を含む、不動産工事先取特権の保存の登記にあつては、法第八十三条第一項第一号の債権額は工費用の予算額とする。）</p>

<p>三十四 建物新築する場合における不動産工事の先取特権の保存の登記</p>	
<p>イ 法第八十三条第一項各号イ(第三号を除く。)に掲げる登記事項(同項第一号の債権額又は工事費用の予算額とする。) ロ 新築する建物の所在することとなる市、区、郡、町、村、字及び土地の地番並びに当該建物の家屋番号 (3) 順位事項</p>	<p>ロ 一又は二以上の不動産に関する権利を目的とする先取特権の保存の登記をした後、同一の債権の担保として他の一又は二以上の不動産に関する権利を目的とする先取特権の保存の登記を申請するときは、前の登記に係る次に掲げる事項(申請を受ける登記所に当該前の登記に係る共同担保目録がある場合には、法務省令で定める事項) (1) 土地にあつては、当該土地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該土地の地番 (2) 建物にあつては、当該建物の所在する市、区、郡、町、村、字及び土地の地番並びに当該建物の家屋番号 (3) 順位事項</p>
<p>イ 法第八十三条第一項各号イ(第三号を除く。)に掲げる登記事項(同項第一号の債権額又は工事費用の予算額とする。) ロ 新築する建物の所在することとなる市、区、郡、町、村、字及び土地の地番並びに当該建物の家屋番号 (3) 順位事項</p>	<p>イ 法第八十三条第一項各号イ(第三号を除く。)に掲げる登記事項(同項第一号の債権額又は工事費用の予算額とする。) ロ 新築する建物の所在することとなる市、区、郡、町、村、字及び土地の地番並びに当該建物の家屋番号 (3) 順位事項</p>
<p>四十四 質権(根質権を除く。以下この項において同じ。)の設定又は転質の登記</p>	<p>四十四 所有権の登記がある建物の附属建物を新築する場合における不動産工事の先取特権の保存の登記</p>
<p>イ 法第八十三条第一項各号イ(第三号を除く。)に掲げる登記事項(同項第一号の債権額又は工事費用の予算額とする。) ロ 新築する建物の所在することとなる市、区、郡、町、村、字及び土地の地番並びに当該建物の家屋番号 (3) 順位事項</p>	<p>イ 法第八十三条第一項各号イ(第三号を除く。)に掲げる登記事項(同項第一号の債権額又は工事費用の予算額とする。) ロ 新築する建物の所在することとなる市、区、郡、町、村、字及び土地の地番並びに当該建物の家屋番号 (3) 順位事項</p>

<p>七十 四</p> <p>根質権の設定の登記</p>	<p>関する権利を目的とする質権の設定又は転質の登記を申請するときは、前の登記に係る次に掲げる事項（申請を受ける登記所に当該前の登記に係る共同担保目録がある場合には、法務省令で定める事項）</p> <p>(1) 土地にあつては、当該土地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該土地の地番</p> <p>(2) 建物にあつては、当該建物の所在する市、区、郡、町、村、字及び土地の地番並びに当該建物の家屋番号</p> <p>(3) 順位事項</p>
<p>登記原因を証する情報</p> <p>一の不動産に関する権利を目的とする根質権の設定の登記又は二以上の不動産に関する根質権の設定の登記（民法第九十五条第一項各号イ（第一号を除く。）に掲げる登記事項</p> <p>法第九十五条第一項各号イに掲げる登記事項</p> <p>法第九十五条第二項において準用する法第八十八条第百九十八条の十六の登記をしたものに限る。）</p> <p>二 民法第三百六十一条において準用する同法第三百九十九の八条の十六の登記にあつては、同条の登記である旨</p> <p>ホ 一の不動産に関する権利を目的とする根質権の設定の登記又は二以上の不動産に関する根質権の設定の登記（民法第三百六十一条において準用する同法第三百九十八条の十六の登記をしたものに限る。）をした後、同一の債権の担保として他の一又は二以上の不動産に関する権利を目的とする根質権の設定の登記及び同条の登記を申請するときは、前の登記に係る次に掲げる事項</p> <p>(1) 土地にあつては、当該土地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該土地の地番</p> <p>(2) 建物にあつては、当該建物の所在する市、区、郡、</p>	<p>登記原因を証する情報</p> <p>一の不動産に関する権利を目的とする根質権の設定の登記又は二以上の不動産に関する根質権の設定の登記（民法第九十五条第一項各号イ（第一号を除く。）に掲げる登記事項</p> <p>法第九十五条第一項各号イに掲げる登記事項</p> <p>法第九十五条第二項において準用する同法第三百九十八条の十六の登記をしたものに限る。）</p> <p>二 民法第三百六十一条において準用する同法第三百九十九の八条の十六の登記にあつては、同条の登記である旨</p> <p>ホ 一の不動産に関する権利を目的とする根質権の設定の登記又は二以上の不動産に関する根質権の設定の登記（民法第三百六十一条において準用する同法第三百九十八条の十六の登記をしたものに限る。）をした後、同一の債権の担保として他の一又は二以上の不動産に関する権利を目的とする根質権の設定の登記及び同条の登記を申請するときは、前の登記に係る次に掲げる事項</p> <p>(1) 土地にあつては、当該土地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該土地の地番</p> <p>(2) 建物にあつては、当該建物の所在する市、区、郡、</p>
<p>八十 四</p> <p>債権の一部について譲渡又は代位弁済がなされた場合における質権又は転質の移転の登記</p> <p>民法第三百六十一条イ（根質権の処分の登記にあつては、同項第一号を除く。）の規定により質権を他の債権のために譲渡し、若しくは質権を譲渡し、若しくは質権を放棄する場合の登記</p> <p>法第八十三条第一項各号イ（第一号を除く。）に掲げる登記事項（同項第四号に掲げる登記事項であつて、他の登記所の管轄区域内百九十八条の十六の登記をしたものに限る。）</p> <p>三 民法第三百六十一条において準用する同法第三百九十九の八条の十六の登記にあつては、同条の登記である旨</p> <p>ホ 一の不動産に関する権利を目的とする根質権の設定の登記又は二以上の不動産に関する根質権の設定の登記（民法第三百六十一条において準用する同法第三百九十八条の十六の登記をしたものに限る。）をした後、同一の債権の担保として他の一又は二以上の不動産に関する権利を目的とする根質権の設定の登記及び同条の登記を申請するときは、前の登記に係る次に掲げる事項</p> <p>(1) 土地にあつては、当該土地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該土地の地番</p> <p>(2) 建物にあつては、当該建物の所在する市、区、郡、町、村、字及び土地の地番並びに当該建物の家屋番号</p> <p>(3) 順位事項</p> <p>二 根質権の処分の登記にあつては、法第九十五条第二</p>	<p>登記原因を証する情報</p> <p>一の不動産に関する権利を目的とする根質権の設定の登記又は二以上の不動産に関する根質権の設定の登記（民法第九十五条第一項各号イ（第一号を除く。）に掲げる登記事項</p> <p>法第九十五条第一項各号イに掲げる登記事項</p> <p>法第九十五条第二項において準用する同法第三百九十八条の十六の登記をしたものに限る。）</p> <p>三 民法第三百六十一条において準用する同法第三百九十九の八条の十六の登記にあつては、同条の登記である旨</p> <p>ホ 一の不動産に関する権利を目的とする根質権の設定の登記又は二以上の不動産に関する根質権の設定の登記（民法第三百六十一条において準用する同法第三百九十八条の十六の登記をしたものに限る。）をした後、同一の債権の担保として他の一又は二以上の不動産に関する権利を目的とする根質権の設定の登記及び同条の登記を申請するときは、前の登記に係る次に掲げる事項</p> <p>(1) 土地にあつては、当該土地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該土地の地番</p> <p>(2) 建物にあつては、当該建物の所在する市、区、郡、町、村、字及び土地の地番並びに当該建物の家屋番号</p> <p>(3) 順位事項</p> <p>二 根質権の処分の登記にあつては、法第九十五条第二</p>

<p>十五 民法第三百六十一条において準用する同受けた不動産に関する権利、法第三百九十三条の当該不動産の代価及び当該弁済を受けた額 ロ 法第八十三条第一項各号（根質権の登記にあつては、同項第一号を除く。）に掲げる登記事項（同項第四号に掲げる登記事項であつて、他の登記所の管轄区域内にある不動産に関するものがあるときは、当該不動産についての第三号第七号及び第八号に掲げる事項を含む。）</p>	<p>項において準用する法第八十八条第二項各号に掲げる登記事項 ホ 民法第三百六十一条において準用する同法第三百九十八条の十六の登記にあつては、同条の登記である旨 ヘ 一の不動産に関する権利を目的とする根質権の設定の登記又は二以上の不動産に関する権利を目的とする根質権の設定の登記（民法第三百六十一条において準用する同法第三百九十八条の十六の登記をしたものに限る。）をした後、同一の債権の担保として他の一又は二以上の不動産に関する権利を目的とする根質権の処分登記及び同条の登記を申請するときは、前の登記に係る次に掲げる事項 （一）土地にあつては、当該土地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該土地の地番 （二）建物にあつては、当該建物の所在する市、区、郡、町、村、字及び土地の地番並びに当該建物の家屋番号 （三）順位事項 （四）申請を受ける登記所に共同担保目録があるときは、法務省令で定める事項</p>
<p>十五 民法第三百六十一条において準用する同法第三百九十八条の付番号並びに登記原因及びその日付 ロ 分割前の根質権の債務者より根質権を分割して譲り渡す場合の登記に担保すべき債権の範囲 ハ 分割後の各根質権の極度額 ニ 分割前の根質権について民法第三百六十一条において準用する同法第三百七十条ただし書の別段の定め又は担保すべき元本の確定すべき期日の定めが登記されているときは、その定め ホ 分割前の根質権に関する共同担保目録があるときは、法務省令で定める事項</p>	<p>登記原因を証する情報</p>
<p>十五 民法第三百六十一条において準用する同法第三百九十八条の付番号並びに登記原因及びその日付 ロ 分割前の根質権の債務者より根質権を分割して譲り渡す場合の登記に担保すべき債権の範囲 ハ 分割後の各根質権の極度額 ニ 分割前の根質権について民法第三百六十一条において準用する同法第三百七十条ただし書の別段の定め又は担保すべき元本の確定すべき期日の定めが登記されているときは、その定め ホ 分割前の根質権に関する共同担保目録があるときは、法務省令で定める事項</p>	<p>登記原因を証する情報</p>
<p>十五 民法第三百六十一条において準用する同法第三百九十八条の付番号並びに登記原因及びその日付 ロ 分割前の根質権の債務者より根質権を分割して譲り渡す場合の登記に担保すべき債権の範囲 ハ 分割後の各根質権の極度額 ニ 分割前の根質権について民法第三百六十一条において準用する同法第三百七十条ただし書の別段の定め又は担保すべき元本の確定すべき期日の定めが登記されているときは、その定め ホ 分割前の根質権に関する共同担保目録があるときは、法務省令で定める事項</p>	<p>登記原因を証する情報</p>

民法第三百六十一条において準用する同法第九十五条第一項各号に掲げる登記事項
ニ 根質権の登記にあつては、法第九十五条第二項において準用する法第八十八条第二項各号に掲げる登記事項

民法第三百六十一条において準用する同法第九十五条第二項（法第九十五条第二項において準用する法第九十三条の規定）
民事執行法（昭和五十四年法律第四号）第四十九条第二項（同法第八十八条において準用する場合を含む。）の規定による催告又は国税徴収法（昭和三十四年法律第四十七号）第五十五条（同条の例による場合を含む。）の規定による通知を受けたことを証する情報

いての第三条第七号及び第八号に掲げる事項を含む。）の登記の管轄区域内にある不動産に関するものがあるときは、当該前の登記に関する登記事項証明書

口 抵当権（根抵当権を除く。ハにおいて同じ。）の処分

ハ 一又は二以上の不動産に関する権利を目的とする抵当権の設定の登記をした後、同一の債権の担保として他の一又は二以上の不動産に関する権利を目的とする抵当権の処分の登記を申請するときは、前の登記に係る次に掲げる事項（申請を受ける登記所に当該前の登記に係る共同担保目録がある場合には、法務省令で定める事項）

（1） 土地にあつては、当該土地の所在する市、区、郡、町、村及び字並びに当該土地の地番

（2） 建物にあつては、当該建物の所在する市、区、郡、町、村、字及び土地の地番並びに当該建物の家屋番号

（3） 順位事項

ニ 根抵当権の処分の登記にあつては、法第八十八条第二項各号に掲げる登記事項

ホ 民法第三百九十八条の十六の登記にあつては、同条の登記である旨

ヘ 一の不動産に関する権利を目的とする根抵当権の設定の登記又は二以上の不動産に関する権利を目的とする根抵当権の設定の登記（民法第三百九十八条の十六の登記をしたものに限る。）をした後、同一の債権の担保として他の一又は二以上の不動産に関する権利を目的とする根抵当権の処分の登記及び同条の登記を申請するときは、前の登記に係る次に掲げる事項

の登記所の管轄区域内にある不動産に関するものがあるときは、当該前の登記に関する登記事項証明書

五十 民法第三百九十三条の規定による代位の登記

イ 先順位の抵当権者が弁済を受けた不動産に関する権利、当該不動産の代価及び当該弁済を受けた額

ロ 法第八十三条第一項各号（根抵当権の登記にあつては、同項第一号を除く。）に掲げる登記事項（同項第四号に掲げる登記事項であつて、他の登記所の管轄区域内にある不動産に関するものがあるときは、当該不動産についての第三条第七号及び第八号に掲げる事項を含む。）

ハ 抵当権（根抵当権を除く。）の登記にあつては、法第八十八条第一項各号に掲げる登記事項

ニ 根抵当権の登記にあつては、法第八十八条第二項各号に掲げる登記事項

イ 根抵当権の設定の登記に係る申請の年月日及びその日付

ロ 分割前の根抵当権の債務者の氏名又は名称及び住所並びに担保すべき債権の範囲

ハ 分割後の各根抵当権の極度額

ニ 分割前の根抵当権について民法第三百七十条ただし書の別段の定め又は担保すべき元本の確定すべき期日の定め

六十 民法第三百九十八条の十二第二項の規定に係る申請の受付の年月日及びその日付

イ 根抵当権の設定の登記に係る申請の年月日及びその日付

ロ 分割前の根抵当権の債務者の氏名又は名称及び住所並びに担保すべき債権の範囲

ハ 分割後の各根抵当権の極度額

ニ 分割前の根抵当権について民法第三百七十条ただし書の別段の定め又は担保すべき元本の確定すべき期日の定め

登記原因を証する情報

登記原因を証する情報

登記原因を証する情報

<p>六十 民法第三百九十八條の十九第二項の規定により根抵当権の担保すべき元本が確定した場合の登記（法第九十三條の規定により登記名義人が単独で申請するものに限る。）</p>	<p>六十 民法第三百九十八條の十九第二項の規定により根抵当権の担保すべき元本が確定した場合の登記（法第九十三條の規定により登記名義人が単独で申請するものに限る。）</p>	<p>六十 民法第三百九十八條の二十第一項第三号の規定により根抵当権の担保すべき元本が確定した場合の登記（法第九十三條の規定により登記名義人が単独で申請するものに限る。）</p>	<p>六十 民法第三百九十八條の二十第一項第四号の規定により根抵当権の担保すべき元本が確定した場合の登記（法第九十三條の規定により登記名義人が単独で申請するものに限る。）</p>	<p>六十 民法第三百九十八條の二十第一項第四号の規定により根抵当権の担保すべき元本が確定した場合の登記（法第九十三條の規定により登記名義人が単独で申請するものに限る。）</p>	<p>六十 民法第三百九十八條の二十第一項第四号の規定により根抵当権の担保すべき元本が確定した場合の登記（法第九十三條の規定により登記名義人が単独で申請するものに限る。）</p>	<p>六十 民法第三百九十八條の二十第一項第四号の規定により根抵当権の担保すべき元本が確定した場合の登記（法第九十三條の規定により登記名義人が単独で申請するものに限る。）</p>	<p>六十 民法第三百九十八條の二十第一項第四号の規定により根抵当権の担保すべき元本が確定した場合の登記（法第九十三條の規定により登記名義人が単独で申請するものに限る。）</p>	<p>六十 民法第三百九十八條の二十第一項第四号の規定により根抵当権の担保すべき元本が確定した場合の登記（法第九十三條の規定により登記名義人が単独で申請するものに限る。）</p>
<p>が登記されているときは、その定め ホ 分割前の根抵当権に関する共同担保目録があるときは、法務省令で定める事項</p>	<p>民法第三百九十八條の十九第二項の規定による請求をしたことを証する情報</p>	<p>民事執行法第四十九條第二項（同法第八十八條において準用する場合を含む。）の規定による催告又は国税徴収法第五十五條（同條の例による場合を含む。）の規定による通知を受けたことを証する情報</p>	<p>債務者又は根抵当権設定者について破産手続開始の決定があつたことを証する情報</p>	<p>買主が支払った代金（民法第五百七十九條の別段の合意をした場合にあっては、その合意により定めた金額）及び契約の費用並びに買戻しの期間の定めがあるときはその定め</p>	<p>登記原因を証する情報</p>	<p>登記原因を証する情報</p>	<p>登記原因を証する情報</p>	<p>登記原因を証する情報</p>
<p>六十 信託財産に属する不動産についてする権利の移転の登記（法第九十三條第一項の規定により新たに選任された受託者が単独で申請するものに限る。）</p>	<p>六十 民法第九十七條第一項第二号の定めのある信託の信託財産に属する不動産について権利の変更の登記を申請する場合において、申請人が受益者であるときは、同号の定めに係る条件又は方法により指定され、又は定められた受益者であることを証する情報 ロ 信託法第八十五條第三項に規定する受益証券発行信託の信託財産に属する不動産について権利の変更の登記を申請する場合において、申請人が受益者であるときは、次に掲げる情報 (1) 当該受益者が受益証券が発行されている受益権の受益者であるときは、当該受益権に係る受益証券 (2) 当該受益者が社債、株式等の振替に関する法律（平成十三年法律第七十五号）第九十七條の二第一項に規定する振替受益権の受益者であるときは、当該受益者が同法第九十七條の二第三項の規定により交付を受けた書面又は同法第九十七條の規定により交付を受けた書面若しくは提供を受けた情報 (3) 当該受益者が信託法第八十五條第二項の定めのある受益権の受益者であるときは、同法第八十七條第一項の書面又は電磁的記録 ハ 信託の併合又は分割による権利の変更の登記を申請するときは、次に掲げる情報 (1) 信託の併合又は分割をしても従前の信託又は信託法第五十五條第一項第六号に規定する分割信託若しくは同号に規定する承継信託の同法第二條第九項に規定する信託財産責任負担債務に係る債権を有する債権者を害するおそれのないことが明らかであるときは、これを証する情報 (2) (1)に規定する場合以外の場合においては、受託者において信託法第五十二條</p>	<p>六十 信託目録に記載すべき情報 法第九十三條第一項に規定する事由により受託者の任務が終了したことを証する市町村長、登記官その他の公務員が職務上作成した情報及び新たに受託者が選任されたことを証する情報</p>	<p>六十 信託目録に記載すべき情報 法第九十三條第一項に規定する事由により受託者の任務が終了したことを証する市町村長、登記官その他の公務員が職務上作成した情報及び新たに受託者が選任されたことを証する情報</p>	<p>六十 信託目録に記載すべき情報 法第九十三條第一項に規定する事由により受託者の任務が終了したことを証する市町村長、登記官その他の公務員が職務上作成した情報及び新たに受託者が選任されたことを証する情報</p>	<p>六十 信託目録に記載すべき情報 法第九十三條第一項に規定する事由により受託者の任務が終了したことを証する市町村長、登記官その他の公務員が職務上作成した情報及び新たに受託者が選任されたことを証する情報</p>	<p>六十 信託目録に記載すべき情報 法第九十三條第一項に規定する事由により受託者の任務が終了したことを証する市町村長、登記官その他の公務員が職務上作成した情報及び新たに受託者が選任されたことを証する情報</p>	<p>六十 信託目録に記載すべき情報 法第九十三條第一項に規定する事由により受託者の任務が終了したことを証する市町村長、登記官その他の公務員が職務上作成した情報及び新たに受託者が選任されたことを証する情報</p>	<p>六十 信託目録に記載すべき情報 法第九十三條第一項に規定する事由により受託者の任務が終了したことを証する市町村長、登記官その他の公務員が職務上作成した情報及び新たに受託者が選任されたことを証する情報</p>

<p>九十六 所有権に関する仮登記に基づく本登記</p>	<p>八十六 仮登記の登記義務者の承諾がある場合における法第七十条第一項の規定による仮登記</p>	<p>七十六 信託財産に属する不動産についてする一部の受託者の任務の終了による権利の変更の登記（法第七十条第二項の規定により他の受託者が単独で申請するものに限る。）</p>	<p>三の六十六 信託法第三条第三号に掲げる方法によってされた信託による権利の変更の登記</p>	<p>第二項、第五十六条第二項又は第六十条第二項の規定による公告及び催告（同法第五十二条第三項、第五十六条第三項又は第六十条第三項の規定により公告を官報のほか時事に関する事項を掲載する日刊新聞紙又は同法第五十二条第三項第二号に規定する電子公告によってした法人である受託者にある場合は、これらの方法による公告）をしたこと並びに異議を述べた債権者があるときは、当該債権者に対し弁済し若しくは相当の担保を提供し若しくは当該債権者に弁済を受けさせることを目的として相当の財産を信託したこと又は当該信託の併合若しくは分割をしても当該債権者を害するおそれがないことを証する情報</p>
<p>イ 登記上の利害関係を有する第三者（本登記につき利害関係を有する抵当証券の所持人又は裏書人を含む。）があるときは、当該第三者の承諾を証する当該第三者が作成した情報（仮登記担保契約に関する法律（昭和五十三年法律第七十八号）第十八条本文の規定により当該承諾に代えることができる同条本文に規定する差押えをしたこと及び清算金を供託したことを証する情報を含む。）又は当該第三者に対抗することができる裁判があったことを証する情報</p>	<p>イ 登記原因を証する情報 ロ 仮登記の登記義務者の承諾を証する当該登記義務者が作成した情報</p>	<p>法第七十条第一項に規定する事由により一部の受託者の任務が終了したことを証する市町村長、登記官その他の公務員が職務上作成した情報</p>	<p>信託法第四条第三項第一号に規定する公正証書等（公正証書については、その謄本）又は同項第二号の書面若しくは電磁的記録及び同号の通知をしたことを証する情報</p>	<p>第二項、第五十六条第二項又は第六十条第二項の規定による公告及び催告（同法第五十二条第三項、第五十六条第三項又は第六十条第三項の規定により公告を官報のほか時事に関する事項を掲載する日刊新聞紙又は同法第五十二条第三項第二号に規定する電子公告によってした法人である受託者にある場合は、これらの方法による公告）をしたこと並びに異議を述べた債権者があるときは、当該債権者に対し弁済し若しくは相当の担保を提供し若しくは当該債権者に弁済を受けさせることを目的として相当の財産を信託したこと又は当該信託の併合若しくは分割をしても当該債権者を害するおそれがないことを証する情報</p>
<p>四十七 不動産の移転の登記</p>	<p>三十七 官庁又は公署が関与する登記等 国又は地方公共団体が登記権利者となる権利に関する登記（法第七十六条第一項の規定により官庁又は公署が囑託するものに限る。）</p>	<p>二十七 保全仮登記とともにした処分禁止の登記に後れる登記の抹消（法第七十三条の規定により仮処分の債権者が単独で申請するものに限る。）</p>	<p>一十七 仮処分に関する登記 民事保全法第五十三条第一項の規定による処分禁止の登記（保全仮登記とともにしたものを除く。）に後れる登記の抹消（法第七十一条第一項（同条第二項において準用する場合を含む。）の規定により仮処分の債権者が単独で申請するものに限る。）</p>	<p>ロ イの第三者が抵当証券の所持人又は裏書人であるときは、当該抵当証券 イ 登記原因を証する情報 ロ 仮登記の登記名義人の承諾を証する当該登記名義人が作成した情報又は当該登記名義人に対抗することができる裁判があったことを証する情報 ハ 登記上の利害関係を有する第三者があるときは、当該第三者の承諾を証する当該第三者が作成した情報又は当該第三者に対抗することができる裁判があったことを証する情報</p>
<p>土地の収用による所有権の移転の登記を申請するときは、証する情報及びその他の登記原因を証する情報 法第七十八条第四項前段の規程 土地の収用による所有権の移転の登記を申請するときは、この項の申請情報欄に規定する権利が消滅し、又は同欄に規定する差押</p>	<p>イ 登記原因を証する情報 ロ 登記義務者の承諾を証する当該登記義務者が作成した情報</p>	<p>民事保全法第五十九条第一項に規定する通知をしたことを証する情報</p>	<p>民事保全法第五十九条第一項に規定する通知をしたことを証する情報</p>	<p>イ 登記原因を証する情報 ロ 仮登記の登記名義人の承諾を証する当該登記名義人が作成した情報又は当該登記名義人に対抗することができる裁判があったことを証する情報 ハ 登記上の利害関係を有する第三者があるときは、当該第三者の承諾を証する当該第三者が作成した情報又は当該第三者に対抗することができる裁判があったことを証する情報</p>

五十七 登記による権利の消滅の	
	<p>差押え若しくは仮処分に関する登記の目的、申請の受付の年月日及び受付番号、登記原因及びその日付並びに順位事項</p>
<p>取用の裁決が効力を失っていないことを証する情報及びその他の登記原因を証する情報</p>	<p>差押え若しくは仮処分が失効したことを証する情報</p>